

大江戸  
人形喜劇

# 弥次さん喜多さん トンちんカン珍道中

原作／十返舎一九  
「東海道中膝栗毛」

脚本／佃典彦  
演出／山本コーゾー  
演出協力・人形美術／伊東亮



あらすじ  
まんじゅうの大食い大会で起こした大失敗から、江戸を追われてしまった弥次さんと喜多さんは、今流行りのお伊勢参りに向かう。二人の行く先々必ず起こるとんでもない大騒動。二人を執拗に追いつく役人の栗山桃右衛門、傷心の相撲取り鬼の山も加わり、伊勢までの大珍道中がはじまる。



～二人の愉快な旅路を彩る 庶民の娯楽「伝統芸能」の数々～

歌舞伎に講談、太鼓に三味線、果ては皿回しに人形芝居。伝統芸能には人生を豊かにするための先人の知恵と力が詰まっています。

～ゆっくりのんびり道中記 それそのものがメッセージ～

失敗しても何のその、マイペースに旅を続ける弥次さん喜多さん。生きているだけで私たちははかしくも人生を豊かにできるのだと、多くの子どもたちに感じてほしいと願います。

～ご当地ネタ満載 お祭りのように人形芝居を楽しみましょう～

町に旅一座がやってくる。それだけでもお祭り騒ぎです。弥次喜多が公演地のエピソードを語る場面の台本作りから、みんなで一緒に楽しみましょう。

